

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2692800069		
法人名	社会福祉法人 城陽福祉会		
事業所名	グループホーム ひだまり鍛冶塚		
所在地	京都府城陽市平川鍛冶塚64		
自己評価作成日	平成30年1月17日	評価結果市町村受理日	平成30年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaikokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2692800069-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊町83-1 「ひと・まち交流館 京都」1階
訪問調査日	平成30年2月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が安心・安全に過ごせる環境を維持し、笑顔やおしゃべりが絶え間ないホームを目指しています。敷地内にある果樹園を始め、「畑」では季節の花や野菜を育て、季節ごとの収穫を楽しみ、味わい、共に喜んでいます。庭に咲いた花を食卓に飾ったり、収穫した「くだもの」を使った「手作りおやつ」づくりなども楽しんでいます。地域の行事(地蔵盆や子供神輿巡行等)にも職員と一緒に参加しています。季節ごとに外出や外食を、ご家族と共に出かけ楽しんでいます。毎日の食事では、下ごしらえ(野菜を切る)～配膳までを役割分担しながら、入居者と職員が一緒に作っています。認知症状の進行に伴い、周辺症状や問題行動に対し、専門医との連携や「その人らしい」生活ができるように支援していきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

創設8年目を迎えたグループホーム ひだまり鍛冶塚は(以下ホーム)、当ホームのシンボルともいえる果樹園や菜園も根付き、近隣の人達との会話の糸口になり、収穫物は食卓を賑わし、花は入居者の手で、生花となり季節を届けている。ホームは地域の自治会の一員となり、地域の人達と挨拶を交わし、祭や地蔵盆、認知症カフェ等に参加している。ボランティア・老人会・介護相談員の支援や来訪もあり、双方向の交流も始まっている。入居者の日々の生活は「その人らしさ」を大切に、個別の趣味や役割に着目し支援されている。家族とは連携を大切に、日ごろの生活状況の報告はもとより、行事への案内を届け、共に過ごす時間を大切に、また要望などの把握にも配慮し、家族・職員交流会を実施されてきている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼(ミーティング)にて唱和している	開設当初の理念「みんなで過ごすもう一つの我が家」を踏まえ、実践に向け「方針」を職員で話し合い作成。「ありがとう」をベースに「(あ)愛する」「(り)理解する」「(が)頑張る」「(と)尊ぶ」「(う)嬉しい」の気持ちを方針に定め、「笑顔やお喋りが絶えないホームを目指し」取り組んでいる。これらの文書は、玄関の正面に掲示されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日にはご近所を散歩している。ご近所の方と挨拶をしたり、栽培されているお花の話を書くなど、地域の方と交流する機会が増えてきている。また、犬の散歩の途中にホームに寄って下さる方がおられる。	地域との繋がりを大切に、職員は近隣の人達と笑顔で挨拶を交わしている。ホームの畑や果樹園が話題に上り、会話を交わす機会もあり、近隣から草取りのボランティアに来ていただいている。自治会には賛助会員として加入し、回覧板等から地域の情報を得、地域の行事や催しに参加し、地蔵盆や地元のお祭りに出かけ、お神輿を眺め楽しめている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事(地蔵盆等)の行事に参加したり、ホームが行う訓練など、ご近所の方に参加して頂き交流を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回の会議でホームの様子を伝えている。また、会議の中で出された意見でできることはできるように努めている。	会議メンバーは入居者、家族、自治会代表、民生委員、老人会会長、城陽市職員、地域包括支援センター職員、事業所職員である。ホームからは在籍入居者の現況報告、活動・行事報告がされている。参加者から「みとり体制」への要望や、防災、「みんなのカフェ」、剪定について他、意見や提案、質問が活発に交わされている。会議内容は「議事録」にまとめられ、情報を共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で伝えている。わからないことがあれば、電話などでアドバイスを受けている。	運営推進会議に、城陽市や包括支援センターもメンバーであるため、一定の情報の共有や連携は図れており協力体制は維持されている。市から介護相談員の紹介も得て、月一回、訪問を受け、入居者の相談や話し相手をしてもらっている。市内の関連事業所との会合には参加し情報収集や関連事業所との交流を図っている。	

京都府 グループホーム ひだまり鍛冶塚

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で開催される研修やホーム会議にて研修し、話し合い、実践に繋げている。	虐待は「絶対あってはならないこと」、身体拘束は「行わないことを約束」とホームの年間計画に明記し法人に提出している。研修はベテラン・新人問わず、全員研修を8月に実施すると計画がされている。当該項目を研修で受講した職員は伝達研修をホームで行い職員への周知徹底を図っている。骨折に注意を要する入居者にはケアの面でリスク回避の工夫や、緊急やむなくセンサー等で対応せざるを得ない場合は事前に家族に説明し同意を得るとともに、拘束時間・期間等を記録に残している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で開催される研修やホーム会議にて研修し、話し合い、実践に繋げている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人の全体会議等で研修しているが、ホームの中には対象者がいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明・納得して頂いている。また、入居後、質問等あれば、答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員の受け入れを実施している。運営推進会議にて発言の機会を確保している。また、面会時に何か要望がないかお聞きしている。家族交流会を開催している。	普段の面会時には話を交わし意見等が聞けるよう配慮している。運営推進会議にも家族は参加されており、意見を述べる機会がある。また介護相談員を通し入居者が話される場もある。年2回家族交流会を設け食事を一緒にしたり、他に行事には参加を呼び掛け、ホームの職員とも身近に話し合える機会を大事にしている。家族はアットホームで、話しやすいと述べている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	出来ている	「ホーム会議」は月1回開催され、研修や運営面の意見交換の場とされている。各々の事業担当者から行事や備品に関する意見・要望が出され、検討がなされている。食事の際のランチョンマットがトレー式に変更されたのも職員の提案により意見が交わされ、食事開始時の改善が図れている。	

京都府 グループホーム ひだまり鍛冶塚

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいを持てるように、その都度話を聞き、勤務体制も添える様にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修など、本人の希望がかなえられる様、勤務調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内にあるもう一つのグループホームと合同の勉強会（認知症）やイベント（利用者交流）を開催している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にホームを見学して頂き、要望などをお聞きしてアセスメントを作成している。ご本人の不安が解消するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来ている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来ている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理・洗濯物を畳むなど、一緒に行いながら、共に暮らす環境づくりに努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との外出を自由にして頂いている。病院受診などはご家族様に依頼しているが、職員が付き添い、話を聞くなどして、本人支えるようにしている。また、家族交流会等も開催している。		

京都府 グループホーム ひだまり鍛冶塚

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理髪店に行ける様、支援している。	長年の馴染みの理髪店での理髪の要望を受け同行している。散髪を終え、すっきりした後のコーヒ一杯を飲み寛がれる様子を職員も眺め楽しんでいる。誕生月に要望があれば外出の機会を家族の協力も得て支援している。面会には友人や、元世話になったヘルパーの来訪もあり、大喜びである。権利擁護担当者の訪問もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングを話したり。遊んだりできる空間づくりに努め、入居者が交流できる場になるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、希望があれば自由に来ていただき、交流出来る様になっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン更新時には、必ず、「本人の意向」を聴くようにしている。	入居に当たっては入居者や家族が困っていることや、不安なこと、要望などを聞き、基本情報等は利用前にサービスを受けていた事業所の情報等を参考に、日常生活の様子・表情等を観察しつつ、生活歴、趣味、得意なことなどを把握し、1ヶ月の暫定ケアプランを作成しサービスをスタートさせている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来ている		

京都府 グループホーム ひだまり鍛冶塚

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の体調を考慮しながら、現状の把握に努めている。血圧・体温・脈拍数については、ご自身で記入して頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア記録・申し送りノートを共有し、情報を収集している。介護計画は3月に1回見直しを行っている。	入居者について、把握した日々の気づきを申し送りノートに記入し、朝のミーティングで確認し情報を共有している。介護計画は計画作成担当者と担当職員が話し合い、入居者のニーズである「充実した活気ある暮らしがしたい」に対し、趣味のお花の手入れ等を本人の役割として、位置づけることについて、入居者・家族の同意の下、プランに入れている。他の入居者もそれぞれ、得意領域が把握され当ホームの「生き甲斐が意識できるよう」計画に反映させている。本プランの後、原則 モニタリングは月1回、ケース会議は3ヶ月1回、6ヶ月経過した時点で、家族を含めた担当者会議を開催しプラン見直しの是非を話し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録・申し送りノートを共有し、情報を収集している。認知症が進んでこられた方に対しては、記録を取り、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り、迅速に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接する小規模多機能事業所で開催される「カフェ」に定期的に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医を自由にして頂いている。入居者の中には、訪問診療を受けておられる方もおられる。	現在、6名が入居前からの主治医を継続され、後の3名は在宅診療を受けている。専門医（泌尿器、整形、皮膚科、洛南病院認知症専門医、歯科）に通院されている入居者もある。原則通院は、家族同行となっている。状況によってはホームも同行する場合がある。	

京都府 グループホーム ひだまり鍛冶塚

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	実施していない		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来ている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化され、ご家族の要望により特養への入所の相談にも応じているが、ホームで過ごしたいと言われるご家族様には出来るだけ添うようにしている。	ただ一年を振り返ると、ご家族の希望により重度化による特養へと移動されていく状況が記録から確認できる。	医療体制の構築を行っていく必要があり、今後の課題として提起させていただく。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム会議等で緊急時の対応等について研修を行い、実践に結びつけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム会議の前に避難訓練を定期的に行ったり、年2回、消防署立ち合いで避難訓練を開催している。避難訓練時には、地域の方にも声掛けを行い、参加して下さっている。	年に3～4回、入居者と一緒に避難訓練を行っている。内2回は消防署立会の下で行われている。地震、火災、水害のハザードマップを掲示し防災意識の向上に役立てている。米やパン、水等の備蓄は1日半程度賄えるストックがある。先の運営推進会議の場で、地域老人会・自治会から、防災対策に関する積極的な声掛けがでている。	防災は、地域の協力なしに、対応は難しい。この機会に、隣接する小規模多機能事業所と共に、地域と連携された具体的な対策を検討されることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室訪問時やケアを行う際は、必ず、本人の了解を得ている。	当ホームは、契約書に「入居者の権利」が明記され、介護計画の作成においては「個人の尊厳」と「人権の尊重」を踏まえ、一人ひとりの気持ちに寄り添った介護計画の作成が求められている。入居者が気持ちよく毎日が過ごせるよう、職員は、常に笑顔を心がけ、実践に向け、法人やホームの接遇マニュアルが設けられている。	

京都府 グループホーム ひだまり鍛冶塚

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いなどを自由に話して頂き、出来る限り思いを聴くようにしている。本人から訴えがあった場合、実現できる機会を持つようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに合わせて支援している。(昼寝やテレビ鑑賞等)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員が付添い、その日着る服など、選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切る、炒める、和える、盛り付ける等してくださっている。	ホームの献立は管理栄養士により作成されているが、入居者の好みも取り入れ献立を変更されることもある。調理は当ホームの特徴でもある入居者・職員が共同で、可能な作業を分担し、準備、後片付けに取り組んでいる。また事業所の菜園で出来た野菜が食卓を賑わせ話題を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人(ひだまり久世)のメニューを参考にしている。食事量の確認表を参考にしながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日中はうがいやお茶を飲んで頂いている。就寝時には口腔ケアを行っている。自分で出来る方はして頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけ、薬に頼らないケアを心がけている。運動や繊維質の多い食べ物、牛乳等を摂って頂くなど工夫している。	入居者の3分の1位の方は布パンツを使用し自立されている。他の人達は排泄表を見て、声掛けをし、トイレに誘導している場合もある。小まめな声掛けで失敗が少なくなっている入居者もある。	

京都府 グループホーム ひだまり鍛冶塚

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録表に基づいて声掛け・誘導等を行っている。状況に応じて下剤の服用を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の意向に沿って声掛けを行い実施している。希望があれば、いつでも入って頂いている。	入浴は平均週3回程度、回数は入居者の好みで対応している。入浴時間帯は午後を当てている。入浴を拒否される方には、対応職員を変えたり、タイミングを配慮し、声掛けするなどにより対応している。ゆず湯、しょうぶ湯などの季節湯は欠かすことはない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の自由にして頂いている。リビングでウトウトされることが多い場合、居室で休んで頂くよう声掛けしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日々の状態の変化に気を配りながら支援している。状態に変化がある場合には家族様に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しいこと、遊び(風船バレー・習字・塗り絵・カラオケ等)や行事(季節の取り組み)など変化を持たせながら、気分転換を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力も得ながら、入居者の誕生日にお出かけを実施している。法人の行事や地域で開催される「カフェ」にも積極的に参加するなどの支援を行っている。	近所の散歩の他、天候によっては軒先でひなたぼっこや、庭のベンチでティータイムを楽しんでいる。近所のミレー喫茶、夕涼み会、紅葉ドライブ、イルミネーション見学、初詣、外食、買い物など、出かける機会も多く、外出にはリフト車2台(1台は本部から)を使っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来ている		

京都府 グループホーム ひだまり鍛冶塚

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来ている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人一人の思いを大切にしながら、居場所づくりを工夫している。テレビを見たり、会話を楽しむ場、ゆったりできる場など、空間の工夫に努めている	花の少ない季節であるが、玄関正面に活けられた赤い山茶花が一際印象的であった。リビングは、入居者の個々の好みや、思いに配慮された空間づくりがされている。室内には、季節の花がこじんまりと、飾られている。また共同制作の季節に合ったちぎり絵が飾られ、季節が味わえる。大きな窓からは菜園や果樹園が見え四季の野菜、果実、花が眺められる。室内には、明るい日差しが入っている。加湿器、空気清浄機が設置され居室は清潔な心地よい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった方と会話できる場、テレビ見れる場、外の景色を見ながらゆっくりできる場づくりなど、居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの家具や写真・仏壇などをご持参されている。	日当たりの良い居室が各廊下に3室ずつと余裕のある設計である。仏壇、使い慣れたタンスやテレビなどが持ちこまれ、個性が窺えそれぞれ居心地の良い居室である。居室の入口付近には入居者の塗り絵作品を飾るなど、「ご自分の部屋」との分かりやすさへの配慮がされている。仏壇には花やお供えがされ、手を合わされている入居者もおられると伺った。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	無理強いせず、ご自身でして頂けるよう支援している。月2回、施設の安全チェックを行っている。		